

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	張 悦
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 日本における李賀詩の受容研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	佐藤 利行	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	本田 義央	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	妹尾 好信	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	李 均洋 (首都師範大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国唐代の詩人李賀 (790～816) 詩の日本における受容の状況について考察したものである。論文は、序章、第一章「日本における李賀詩集の各版本の流布と伝承」、第二章「日本における『将進酒』の解説と受容」、第三章「日本における『感諷』五首と『蘇小小歌』の解説と受容」、第四章「日本における『鬼才』の解説と受容」、第五章「日本における李賀詩の翻訳」、終章の全七章から構成されている。</p> <p>序章では、本研究の動機・目的を論じ、本研究の意義、研究の方法について述べる。先行研究については、その問題となる点をまとめ、詳細なる分析は各章の冒頭部分で詳述している。</p> <p>第一章では、日本における李賀詩集の各版本の流布と伝承の状況に着目して考察している。李賀の「五粒小松歌」中の「小松歌」に対する注釈の出処により、南宋の呉正子注本が我が国に伝えられた最初の『李賀詩集』であるとする。また、その写本の最古のものは室町時代の院本『李長吉歌詩』であること、江戸時代になり林羅山らの手によって抄写された林本が生まれたこと、その後、『李賀詩集』の舶来と刊行が次々と行われ、後世に最も影響を及ぼしたものは文政元年に刊行された『唐李長吉歌詩』の官板本であることなどを丁寧に論証している。</p> <p>第二章では、李賀詩の中から楽府「将進酒」を取り上げ、その解説と受容について検討を行っている。「将進酒」が我が国に初めて伝えられたのは平安中期であるとし、鎌倉・室町時代、江戸時代、近代以降における「将進酒」の受容と日本文学への影響について詳細に検討している。更に「将進酒」の日中両国における受容の状況を比較考察し、享樂的要素を含む点において伝統的な文学価値を重んずる中国では批判的な受け止めが多いのに対し、そこから無常を感じ取ろうとする日本での受け止め方との相違点を明らかにしている。</p> <p>第三章では、李賀詩の中から「感諷」五首の「其一」「其二」「其三」及び「蘇小小歌」を取り上げる。「感諷」詩の「其一」「其二」は中国では政治批判や庶民生活への同情が描き出されている点が高く評価され、鬼詩と評される「其三」はあまり評価されていない。一方、日本では「其三」こそが鬼才李賀の代表作であると高い評価を得ている。また日本では「蘇小小歌」が鬼神亡霊詩の傑作であるとされるのに対し、中国では空虚で幻想的な世界観が描かれるものとして、その評価が低</p>			

いことなど、日中の李賀詩の評価の相違について論述している。

第四章では、日本における李賀の「鬼才」像について述べている。鬼才と称される李賀の詩は「鬼詩」とも言われるが、中国に於ける評価は決して高くない。一方、日本では「鬼才」の称がそのまま李賀を指すように高い評価を得ている。こうした差異は、両国の鬼神観の相違によるものであることを論証している。

第五章では、日本における李賀詩の翻訳の実態について、1930年代～1950年代、1950年代後半から1980年代、1990年代以降の三期の翻訳20種について詳細な分析研究を行っている。漢文訓読式、現代語訳、直訳・意識といった漢詩の翻訳のあり方について述べている。

終章では、本研究で明らかとなった点をまとめ、併せて今後の課題について述べる。

以上、述べたように、本論文は日本における李賀詩の受容の状況について、李賀詩集の伝来と伝承、李賀の代表的な作品の受容と日中両国における評価、李賀詩の翻訳、という面から丹念に考察したものである。日本漢詩への影響や他の李賀詩の検討など、残された課題もあるが、鬼才と称される李賀詩研究への更なる発展的研究が期待できる論文として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)